

テーマ「聖書に親しむ」

1. はじめに（背景）

- ・このときのパウロはテモテに何を伝えたかったのか
 - ・偽教師の間違った教えと、テモテの正しい信仰を対比して、正しい信仰を堅持しなさいとテモテに勇気と励ましを与えるため
 - ・Iテモテ1：4 では偽教師のことを、空想話、系図など、そして思弁と果てしない議論
 - ・空想話、系図などは聖書を前提としていない。
- ・パウロは間違った教えと正しい信仰（テモテ）について心配している
 - ・テモテの正しい信仰の理由—①どの人たちから学んだか（14節）②聖書を、親しんだ（15節）
- ・従って本文では「聖書」について学びたい

2. 本文

①聖書は神の権威ある言葉

- ・15節 聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。
 - ・聖書—旧約聖書全体のこと、創世記、出エジプト記など一巻、一巻の全体。従って好きな巻だけにかたよってはならない。聖書はイエスが与えられるという預言とその成就が記されている。一巻一巻の意味をイエス・キリストとの関係で理解する。
 - ・知恵を与えて—偽教師の愚かさ（3：9）、だましたりだまされたり（3：13）に対して聖書はイエス・キリストの理解、実際的な知恵を与える。
 - ・救いを受けさせることができます—聖書の目的であり、神の権威を示す
 - ・聖書は神の啓示（権威）の現れとしてあるので、イエス・キリストを信じる者に救いを受けさせることができる。反対に聖書以外の書物にはこの力はない。

②聖書を共に学ぶ

- ・16節 1) 聖書はすべて、神の靈感によるもので
 - 2) 教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です
- ・共に学ぶとは
 - ・聖書はただ読んで理解するという素朴なものではなく、解釈を必要とする。それは神の靈感によるためです。この「靈感」の意味は「神が言葉を発せられた」。ヨハネ3：12に「あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう」、「光あれ」「神の口から出る一つ一つのことばによる」
 - ・旧・新約聖書の流れをみますと、イエスキリストが預言され、新約聖書において成就されたことから解釈としてはイエスキリストの視点から旧約聖書を読むことが自然です。ですからイエスが新約聖書で新たな基準を出したことを、旧約聖書から容認するという逆のことではない。
 - ・他の人の意見を聞きながら、共に解釈する人に責任を負うこと
 - Iコリ14：27～33では、「すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができるのです」。この箇所は2、3人がそれぞれの賜物を用いて学びをしている。

③聖書は生活を変える力

- ・ 17節 それは神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。
- ・ 神の人…この場合はテモテ、一般的にはクリスチャン
- ・ 整えられた者…エペソ4：12 「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるため」
- ・ 聖書を学ぶ過程のなかで自らの生活を築く土台がある。それは聖書の意味するところを知り、日常生活で聖書の意義（または聖書的な決断）を決める

3. 終わりに

- ・ 聖書の神を知っているとしないとでは人生が違ってくる。例えばテモテと偽教師。
- ・ マタイ6：24 「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません」。同じように聖書は私たちの人生の全体を包むものですが、聖書とこの世（人生）に兼ね仕えたいと望む。そのところはよく吟味すべきことです。
- ・ 聖書に対しては真剣さと聖霊の導きが必要です。それは、聖書は神の権威によって造られ、神が言葉を発せられたことによって造られたからです。それによって、私たちは整えられた者に変えられていくのです。